
題名のない短編小説 その3

彩月空

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

題名のない短編小説 その3

【Nコード】

N9521C

【作者名】

彩月空

【あらすじ】

走る。僕はただひたすらに走る。苦しくて、何度も立ち止まりそうになるけど、それでも走る。『走る』。それは、現実でもあり、比喻でもある。

息が……苦しい……。

いったい、どれくらい走っただろうか？

息は完全に乱れ、ペースも落ちた。

もう…これ以上は走れない……。

僕はそう思って、足を止めようとする。

「まだ諦めるのは早い」

どこからか声が聞こえた。

「まだ走れるだろ？」

僕は止めかかった足を、また動かし始める。

「そうだ、それでいい」

声は止んだ。

それから、しばらく走った。

しかし、今度こそダメだ……。

呼吸も荒い……。肺が痛い……。

こんなに苦しいのに、なんで僕は走っているんだろう……？

「まだだ。まだ走れる」

声が聞こえた。

いや……もう無理だ。

「言い訳なんて聞きたくない。お前はまだ走れるはずだ」

何を根拠にそんなことを……？

「お前は自分で自分の限界が分かるのか？」

そんなこと当たり前じゃないか？

「バカかお前は」

何だと！？

「苦しいからこそ、辛いからこそ…。それを乗り越えた後に極上の喜びが待っているんじゃないか！」

苦しいからこそ？ 辛いからこそ？

…だから、その苦しくて辛いのが限界だろうっ！？

「その限界の先に、真の喜びがあるって言うてるんだ」

…真の喜び？

声は止んだ。

僕は止まらなかった。

何故だか分からない。

でも、ここで負けるのが嫌な気がした。

これを走りきれば、何かが変わる気がした。

一回りも、二回りも大きくなれる気がした。

だから、僕は走った。

…でも、ダメだと思っ瞬間はある。

頭では動かそうとしているのに、足が動かない。

徐々にスピードが落ちる。

…もう……無理だ。

足がまさに止まるうとした、その瞬間。

…あれ？

急に呼吸が楽になった。

何でだ…？

そして、足も動くようになる。

ああ…これが真の喜びってことか？

今、僕は限界を越えたってのか？

「それは違うな」

また声がした。

「お前が勝手に作った限界なんて、所詮は幻想なんだよ」

あ？

「その幻想を打ち破ったただけだ。お前の限界は、まだまだ遙か先にある」

なるほど。だから、まだ走れるのか？

「そうだ。…お前の限界はそこじゃない」

僕はとにかく走った。

声は止んだ。

ゴールが見えてきた。

あと少しだ…。

「焦るな…」

分かってる。

「ペースを乱してもしようがない」

分かってる！！ でも、こんな苦しい思いなんて、早くやめにしてしまいたい！！

「いいか、よく聞け。ペースを保って走っても、焦ってペースを乱しても、走る距離は結局同じなんだ」

ああ……そうだな。

「どうせ同じ距離を走るんだ。これ以上、呼吸を乱す意味なんてない。これ以上、無駄に苦しむ意味なんてない」

りょーかい。

声は止んだ。

あと少し……。

あと少しだ……。

着いた…。

ゴールだ……。

もう、このまま倒れこんでもいい。

このまま膝から崩れ落ちてもいい。

そのまま起き上がらなくてもいい…。

僕は走りきったんだ。

「どうだ、今の気持ちは？」

…悪く……ないな。爽快な気分だ。

「限界なんて、どこにもなかっただろ？」

…そう……か？

「きっと明日は、もっと遠くまで走れる。きっと明後日は、もっと遠くに。そして……」

ああ、分かるよ……。その通りなんだろうな。

「自分が作り上げた限界という幻想の先には、無限の可能性が広がっている」

ああ、分かるよ…。今、身を持って示したぜ。

「よくやったな…僕」

は？

声は止んだ…。

そうか…。

声の主は僕か…。

僕の弱い心をかき消すために現れた、もう1人の僕か…。

幾分か楽になったので、僕はゆっくりと立ち上がった。

今日は、いろいろと考えさせられる日だった。

勝手に限界を作るな。

その幻想を打ち破った先に成功があるんだ。

そう…。

努力の前に成功があるのは、辞書の中だけなんだ。

明日も、頑張ろう…。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9521c/>

題名のない短編小説 その3

2010年11月12日21時07分発行